

授業グレードアップ Vol. 57

ICTを効果的に使おう！

「個別最適な学び」が進められるよう、きめ細やかな指導支援や子どもの学習調整を促していくことが求められています。そのためにもICTを効果的に活用する必要があります。効果的な活用方法を教師側・児童生徒側等に分けて紹介します。

これまでのICT活用

どちらかといえば教師がICTを活用し、教材の提示等を工夫してきました。いわば「教えるツール」としてのICTです。以下のような活用が見られます。

①情報の視覚化・共有化

・实物投影機・プロジェクター・電子黒板等での拡大表示

例) マーキング ズーム機能



・変化のある拡大提示（デジタル教科書の活用）

例) 小学校4年生「住みよいくらしをつくる」

ごみの増加のようすを年ごとに一つずつ示し、変化の度合いを理解する点で効果的です。また比較させたい二つのグラフだけを示して関係性を考えさせます。

・資料の一部を隠し、予想を支援する。

例) データの一部を提示して今後の展開を予想させます。

・写真と写真、写真とデータ等の比較から「気づき」「ずれ」「疑問」を引き出し「問い合わせ」の設定につなげる。

例) 小学校5年「米づくりのさかんな地域」水田地帯の昔（耕地整理前）と今の写真の比較

②適切なデジタル教材の活用

・さまざまなデジタル教材がありますが、例えば動画の一部のみを見せたり、番組を途中で止めて、考える場面をつくりたりするなど授業のねらいに沿って「情報をどのように示すか」という点を大切に活用する必要があります。

以上のように指導者側の活用は授業のユニバーサル化の面からも重要ですが、これからはより一層、学習者側の活用が求められます。小学校学習指導要領解説社会編には下記のように示されています。

「児童一人一人が図書館やコンピュータなどを活用し、学習問題などについて調べて考え、表現し発信できるようにするために、いつどこの場面で、どのように図書館やコンピュータなどを活用するのか、児童の活動場面を想定しておくようにする。」（「小学校学習指導要領解説社会編」 P.143）

学習者による I C T 活用

①校外での調べ学習

デジタルカメラやタブレット PC など撮影記録手段としての活用。児童生徒はこれまで見学中はメモを取ることに追われていましたが見学後に繰り返し再生が可能です。「学びのツール」と言えるでしょう。（地域の特色、商店、公共施設等の調査）

- 事前指導
- 機器の操作を練習しておく。
 - どのようなものを撮影するのか。
⇒社会科における見方・考え方につながる
 - 役割分担や撮影する際のエチケットの確認。



②インターネットでの調べ学習

授業では情報の検索に時間を費やしてしまう経験も多いのではないでしょうか。また、情報の内容を理解しないまま写すだけになってしまふことにもなりかねません。情報を読み取る力を育てるためにも次のようなステップが考えられます。

- ステップ1 初歩の段階では教師がサイトを指定する。
- ステップ2 出典元を確認する。
- ステップ3 一般の検索エンジンを用いてキーワードで検索する。
(児童・生徒の実態に応じて初歩的な段階からスタートする。)

③学びを表現する学習（主体的・協働的な学び）

- ICT は表現活動のための大切なツール
- 撮影した写真をもとにタブレット PC 等での説明
 - 協働しながらプレゼンテーションソフトでのまとめ
 - 紙に表現したいことをまとめ、実物投影機等で拡大提示
 - PC でまとめた文章を関係機関等に送付



これからの ICT 活用 ⇒ 教師と学習者が共に活用

これからは一人一人の考えを把握したり、考えを共有したりするために ICT を活用する必要があります。教師は一人一人の考えをすぐにつかむことが可能となります。例えば下記のような学習課題を設定したとします。

例) 食料輸入を増やすべきか
津波を防ぐために、海岸堤防を震災前より高くすべきか

タブレット PC 等に考えを入力させることで教師が一人一人の考え方を見取りやすくなります。それによって効果的なコーディネートにつながることが期待できます。課題を事前に提示しておけば、グルーピングにも活かすことができます。端末一人一台の環境は、電子黒板等と結びつけて表現ツールとしての活用が効果的であり主体的・対話的で深い学びにつながると言えます。

さらには課題に対する解決策の優先順位を考える場面で、端末を通して情報交換をすることで他者との見方の差異に気付き、思考の深化につながります。

(授業グレードアップ Vol 56 参照)

まとめ

ICTを活用することで
「早く効果的に情報収集できる」
「見えにくい情報を見えるようにできる」
「繰り返し再生できる」
「映像や音声でわかりやすく伝えることができる」
「情報交換がやりやすく、その結果、考えを広めたり深めたりできる」など学習の幅が広がる。



～文部科学省「教育の情報化に関する手引き」（令和元年12月）P87より～



ICTを生かすことで様々な可能性が広がります。
児童生徒自身が ICT を活用する場面を意図的に設けましょう。主体的・協働的な学びの姿がそこにあります。